

かがやき

～一人一人が輝くように～

卒業版

平成30年3月13日発行

ご卒業おめでとうございます

卒業という名の響きはどのような一つの区切りと、分岐点を示し、また、同時に決定的な脱皮を求められる悲しいようなそして、弾むような不思議な音色です。

九か年に及ぶ義務教育を終えようとしている青学年の皆さん、どんな気持ちで卒業式を迎えますか。「卒業おめでとう」というお祝いの裏に、これまで共に過ごした仲間とも別れ、これから自分一人で歩いていかなければならないことを要求される厳しさが漂います。卒業は独りぼっちになるためのスタートラインかもしれません。そのスタートラインに背筋を伸ばして立てる君たちであってほしい。ほかの誰でもない自分の道をこれから歩いていかなければならないのですから。「よーい ドン」までのカウントダウンはもう始まっていますよ。

卒業に際して特別な言葉やお説教はありません。なぜなら、あらゆる場面で感じたとき、伝えておきたいと思ったときに話してきたから。ただ、最後に伝えるとしたら、「この学年で言われ続け、身に付けようとしたことが本物だと分かるのは、これから。そして、それは自分が決めるのではなく周り。「〇〇さん、お願い」、「ありがとう」、「また、お願い」など頼りにされたり、感謝の気持ちを言ってもらったりしたとき」。

保護者の皆様、九か年に及ぶ義務教育を終えられること誠におめでとうございます。そして、三年間学年、学校へのご理解、ご協力を賜りありがとうございました。保護者の皆様の深いご理解とお力添えがあったからこそ、この日を迎えることができました。三学年教員一同、心よりお礼申し上げます。誠にありがとうございました。また、子供たちは三年間、あらゆる場面で、それぞれの場所で一人一人が「かがやき」を放っていました。そして、これからも一人一人のかがやきを放ち続けてくれるものと確信しております。

学年主任 辻 里美

今こそ出発点

人生とは毎日が訓練の場である

私自身の訓練の場である

失敗もできる訓練の場である

生きているを喜ぶ訓練の場

である

今この幸せを喜ぶこともなく

いつどこで幸せになれるのか

この喜びをもとに

全力で進めよう

わたくし自身の将来は

今この瞬間にある

今ここで頑張らずにいつ頑張る

京都大仙院

尾関宗園